

問題13

正解

I

難易度

A

【出題内容】

ROEに関する正誤問題

【解 説】

~~ア. 正しい。上場会社の決算短信に記載される「自己資本当期純利益率」の自己資本は、次のように算定される。~~

~~自己資本＝株主資本＋評価・換算差額等~~

~~＝純資産－新株予約権（＝少数株主持分……連結貸借対照表の場合）~~

イ. 誤り。ROEは次のように分解される。

(売上高当期純利益率) × (総資産回転率) × (レバレッジ比率)

$$\frac{\text{当期純利益}}{\text{売上高}} \times \frac{\text{売上高}}{\text{総資産}} \times \frac{\text{総資産}}{\text{自己資本}}$$

P255

なお、レバレッジ比率は自己資本比率の逆数である。

ウ. 正しい。P253

エ. 誤り。負債比率が高いほど、ROEの変動はROAの変動よりも大きくなる。P256

オ. 誤り。設備投資の経済性を判断する際のハードルレートには、通常、加重平均資本コストが用いられる。P350

~~以上より、正しいものはア、ウであり、正解はIとなる。~~

→ ちなみに、WACCの計算要素(P350)である株主資本コスト率は「株主が株主資本の額に対して要求するリターン(配当額)の率」であり、

ROE(P253)とも異なる。

↓

$$\frac{\text{当期純利益}}{\text{自己資本}}$$

問題10

正解

4

難易度

A

【出題内容】

融合 財務情報分析(収益性分析) *p252~255について理解を深めてほしい。*

【解説】

平易な問題であるため、確実に正答して欲しかった。*時間制約があるなかでも、落ち着いて、ミスなく計算できるように！*

1. X社(単位:百万円)

	I	II	III	IV(=II/III×100)
	売上高	営業利益	総資本	総資本営業利益率
前期	65,760	5,124	53,520	9.57...% → 9.6%(ア)
当期	67,800	5,376	57,000	9.43...% → 9.4%
前期比	増加	増加	増加	減少(オ)

2. Y社(単位:百万円)

	I	II	III	IV(=II/III×100)
	売上高	営業利益	総資本	総資本営業利益率
前期	32,080	5,010	48,000	10.43...% → 10.4%(ウ)
当期	31,150	4,867	46,575	10.44...% → 10.4%
前期比	減少	減少	減少	ほぼ同じ

3. 穴埋め *p252~255*

- (1) 期末の総資本に基づく総資本営業利益率によりX社とY社を比較すると、前期に関してX社は総資本営業利益率が(ア:②**9.6**)%であり、(イ:⑥Y)社の方が高い。
- (2) Y社の前期の総資本営業利益率は(ウ:③**10.4**)%であり、当期は営業利益が減少しているが、総資本営業利益率については、前期とほぼ同じである。
- (3) 当期に関してはX社の(エ:⑨**営業利益**)は増加し、総資本営業利益率は(オ:⑭**減少**している)。X社の(カ:⑯**総資本**)および(エ:⑨**営業利益**)は、ともに増加しているが、Y社の(カ:⑯**総資本**)および(エ:⑨**営業利益**)はともに当期の方が減少している。
- (4) 総資本営業利益率を大きくするために、(エ:⑨**営業利益**)を増加させるよりも(カ:⑯**総資本**)を減少させることにより、実現しようとする場合がある。(カ:⑯**総資本**)を減少させる方法の一つとして(キ:⑩**機械設備への投資**)を削減することがある。
- (5) (4)の方法を採用すれば長期的な観点からは(ク:⑫**競争力**)の低下につながる可能性があり、望ましいことではない。

$$\text{総資本営業利益率} = \frac{\text{営業利益}}{\text{総資本}}$$

機械設備への投資を削減
↓
生産能力の低下
↓
販売数量の減少

問題10

正解

4

難易度

B

【出題内容】

融合 財務情報分析

【解 説】

計算量が多く一部見慣れない内容もあるが、2択まで絞ることはできるため、何とか正答して欲しかった。

1. 総資本事業利益率 (ア) P253

$$\frac{\text{事業利益} 28,000 \text{ 百万円}}{(\text{X 7 年総資本} 175,000 \text{ 百万円} + \text{X 8 年総資本} 152,000 \text{ 百万円}) \div 2} \times 100 = 17.12 \dots \rightarrow 17.1\%$$

2. 自己資本純利益率の3分解 P255

$\text{自己資本純利益率} = \frac{\text{当期純利益}}{\text{売上高}} \times \frac{\text{売上高}}{\text{総資本 (年平均)}} \times \frac{\text{総資本 (年平均)}}{\text{自己資本 (年平均)}}$
$= \frac{\text{売上高純利益率}}{(\%) \text{ 7.7\% }} \times \frac{\text{総資本回転率}}{(\text{回}) \text{ 1.7回 }} \times \frac{\text{財務レバレッジ}}{(\text{倍}) \text{ 1.4倍 }}$

(1) 売上高純利益率 (イ, オ)

$$\frac{\text{当期純利益} 21,000 \text{ 百万円}}{\text{売上高} 272,000 \text{ 百万円}} \times 100 = 7.72 \dots \rightarrow 7.7\%$$

(2) 総資本回転率 (ウ, カ)

$$\frac{\text{売上高} 272,000 \text{ 百万円}}{(\text{X 7 年総資本} 175,000 \text{ 百万円} + \text{X 8 年総資本} 152,000 \text{ 百万円}) \div 2} = 1.66 \dots \rightarrow 1.7 \text{ 回}$$

(3) 財務レバレッジ (エ, キ)

$$\frac{(\text{X 7 年総資本} 175,000 \text{ 百万円} + \text{X 8 年総資本} 152,000 \text{ 百万円}) \div 2}{(\text{X 7 年自己資本} 125,000 \text{ 百万円} + \text{X 8 年自己資本} 110,000 \text{ 百万円}) \div 2} = 1.39 \dots \rightarrow 1.4 \text{ 倍}$$

3. 経営資本営業利益率 (コ)

$$\frac{\text{営業利益} 27,000 \text{ 百万円}}{(\text{X 7 年経営資本} 140,000 \text{ 百万円} + \text{X 8 年経営資本} 122,000 \text{ 百万円}) \div 2} \times 100 = 20.61 \dots \rightarrow 20.6\%$$

4. インタレスト・カバレッジ・レシオ (サ)

$$\frac{\text{事業利益} 28,000 \text{ 百万円}}{\text{金融費用} 1,500 \text{ 百万円}} = 18.66 \dots \rightarrow 18.7 \text{ 倍}$$

$$\frac{21,000 \text{ 百万円}}{(125,000 + 110,000) \div 2 \text{ 百万円}} \times 100 = 17.87 \dots$$

5. 穴埋め

収益性の尺度は何種類が存在し、まず、総資本事業利益率の平成X8年度の数値は、(ア:②17.1)%である。次に、自己資本純利益率については、利幅の大きさを示す(イ:⑭売上高純利益率)、資本の利用度を示す(ウ:⑰総資本回転率)、総資本を自己資本で除することにより資本の構成を示す(エ:⑳財務レバレッジ)の三つの要素に分解できる。平成X8年度の(イ:⑭売上高純利益率)、(ウ:⑰総資本回転率)、(エ:⑳財務レバレッジ)は、それぞれ(オ:③7.7)%, (カ:⑦1.7)回、(キ:⑧1.4)倍である。なお、薄利多売により利益獲得を目指す企業は、(イ:⑭売上高純利益率)の数値が(ク:㉒低い)傾向にあり、また、(ウ:⑰総資本回転率)の数値が(ケ:㉑高い)傾向にある。そして、経営活動の収益性を示す経営資本営業利益率の平成X8年度の数値は、(コ:⑩20.6)%である。

安全性を評価する指標の一つとしてインタレスト・カバレッジ・レシオが存在する。平成X8年度の数値は(サ:⑬18.7)倍である。

薄利多売

- ・立ち食いそば屋
- ・回転寿司屋
- ・10分散髪屋

厚利少売

- ・宝石屋
- ・高級フレンチ
- ・高級旅館

本問の「金融活動資本」は、「投資や他の資産」をイメージ!
or 長期貸付金
「未利用資本」は「建設仮勘定」をイメージ!

p252

問題 9

正解

6

難易度

B

【出題内容】

理論（正誤） 管理会計総論，財務情報分析

【解 説】

判断に悩む記述もあるが，何とか正答して欲しかった。

ア. 誤

管理会計においても，有用性の観点から，財務会計的な解釈や技法が適用されることは認められている。p246 脚注3 「適法性よりも，有用性や適時性が重視される」だけであり，認められるのはもちろんである。

イ. 誤

財務諸表の実際の数値を使って分析する手法を実数分析という。p252

ウ. 正 p404~406

エ. 正 ※ ある営業部の営業部長や営業課長の4らず，セルスマン1人が利益責任を課されることはある。

以上より，正しい記述は，ウ，エであり，正解は6となる。

問題10

正解

4

難易度

A

【出題内容】

理論（正誤） 財務情報分析

【解説】

ア. 誤

総資本利益率における総資本に対比すべき利益として、事業利益を用いるのが理論的に妥当する。P253

イ. 正

なお、回転期間は回転率の逆数であるので、下式が成立する。

$$\text{棚卸資産回転月数} = \frac{1}{\text{棚卸資産回転率 8 回転}} \times 12 = 1.5 (\text{か月})$$

$$\text{棚卸資産回転日数} = \frac{1}{\text{棚卸資産回転率 8 回転}} \times 365 = 45.625 (\text{日})$$

P254~255
P295~296

ウ. 正 P362~363

エ. 誤

ROA10%, ROE8%, 負債資本倍率2倍, 実効税率50%の場合, 負債利子率は7%である。なお, 負債利子率をX%とおくと, 下式が成立する。

$$\text{ROE } 8\% = \{ \text{ROA } 10\% + (\text{ROA } 10\% - X\%) \times \text{負債資本倍率 } 2 \} \times (1 - \text{実効税率 } 50\%)$$

$$\therefore X = 7\%$$

以上より, 正しい記述はイ, ウであり, 正解は4となる。

B/S

資産	負債
	200
300	
	自己資本
	100

このような問題は, 自分で勝手に数値例を作ればよい。

$$\begin{aligned} \text{当期純利益} &= \underbrace{300 \times \text{ROA } 10\%}_{\text{営業利益}} - \underbrace{200 \times X\%}_{\text{支払利息}} \times (1 - 50\%) \\ &= 15 - X \end{aligned}$$

これが $100 \times \text{ROE}$ と一致するから。

$$15 - X = 8$$

$$X = 7$$

問題13

正解

6

難易度

A

【出題内容】

理論（正誤） 財務情報分析，資金管理

【解 説】

ア．誤

流動比率は、企業の短期的な債務返済能力を示す指標である。この比率は、流動資産を流動負債で除して計算され、債務返済能力の点からは高いほど望ましい。 *P258*

イ．誤

流動資産から流動負債を差し引いた運転資金がプラスであれば、運転資金は、長期借入金、自己資本などによってまかなわれることになる。したがって、運転資金は長期借入金のみによってまかなわれていることを示しているとは言い切れない。 *P258図，259*

ウ．正 *P296*

エ．正 *P258脚注2*

以上より、正しい記述はウ、エであり、正解は6となる。

この解答速報の著作権はT A C (株)のものであり、無断転載・転用を禁じます。

問題16

正解

6

難易度

A

【出題内容】

理論（正誤） 資金管理

【解 説】

ア. 誤

短期のキャッシュ・フロー管理の手法には、販売から売上債権の回収までの回転期間（売上債権回転期間）から、棚卸資産の購入から仕入債務の支払いまでの回転期間（仕入債務回転期間）を控除した数値で管理する手法がある。P296

イ. 誤

棚卸資産は販売により現金化できるので、在庫として保有する期間が短いほど資金繰りは向上する。P255、296

ウ. 正 P374

エ. 正 P258

以上より、正しい記述はウ、エであり、正解は6となる。

問題10

正解

3

難易度

B

【出題内容】

計算 財務情報分析（収益性分析，安全性分析）

【解説】

推定箇所が多いが，何とか正答して欲しかった。

1. 損益計算書と貸借対照表の推定（金額単位：百万円）

損益計算書		
売上高	① 763,659.09	① 売上高営業利益率22.00% = $\frac{\text{営業利益}168,005}{\text{売上高}}$
売上原価	???	∴ 売上高 = $763,659.090 \dots \rightarrow 763,659.09$
売上総利益	182,550	
販売費及び一般管理費	14,545	
営業利益	168,005	
営業外収益	510	
営業外費用	1,280	
経常利益	167,235	← 営業利益168,005 + 営業外収益510 - 営業外費用1,280

すぐわかる箇所
を、とんとん
埋めていく。

貸借対照表			
流動資産	④ 143,841.04	流動負債	87,110
現金及び預金	36,800	支払手形及び買掛金	52,400
受取手形及び売掛金	44,330	短期借入金	20,200
棚卸資産	58,800	未払金	???
その他	???	固定負債	30,220
固定資産	③ 195,563	社債	16,220
有形固定資産	153,760	長期借入金	11,130
無形固定資産	41,070	退職給付引当金	???
投資その他の資産	733	純資産	⑤ 222,074.04
		資本金	160,950
		資本剰余金	50,650
		その他	???
資産合計	② 339,404.04	負債及び純資産合計	② 339,404.04

$$\textcircled{2} \text{ 総資産回転率 } 2.25 \text{ 回} = \frac{\text{売上高 } 763,659.09}{\text{総資産}} \quad P254$$

$$\therefore \text{総資産} = 339,404.04$$

③ 内訳科目合計

$$\textcircled{4} \text{ 総資産 } 339,404.04 - \text{固定資産 } 195,563$$

$$\textcircled{5} \text{ 総資産 } 339,404.04 - \text{流動負債 } 87,110 - \text{固定負債 } 30,220$$

2. 各指標の計算

$$\text{流動比率} = \frac{\text{流動資産 } 143,841.04 \text{ 百万円}}{\text{流動負債 } 87,110 \text{ 百万円}} \times 100 = 165.125 \dots \rightarrow 165.13\% (\text{ア}) \quad P258$$

$$\begin{aligned} \text{固定長期適合比率} &= \frac{\text{固定資産 } 195,563 \text{ 百万円}}{\text{固定負債 } 30,220 \text{ 百万円} + \text{純資産 } 222,074.04 \text{ 百万円}} \times 100 \\ &= 77.513 \dots \rightarrow 77.51\% (\text{イ}) \quad P259 \end{aligned}$$

$$\text{総資産経常利益率} = \frac{\text{経常利益 } 167,235 \text{ 百万円}}{\text{総資産 } 339,404.04 \text{ 百万円}} \times 100 = 49.273 \dots \rightarrow 49.27\% (\text{ウ}) \quad P252 \sim 253$$

$$\begin{aligned} \text{有利子負債財務レバレッジ} &= \frac{\text{短借 } 20,200 \text{ 百万円} + \text{社債 } 16,220 \text{ 百万円} + \text{長借 } 11,130 \text{ 百万円}}{\text{純資産 } 222,074.04 \text{ 百万円}} \\ &= 0.214 \dots \rightarrow 0.21 \text{ 倍} (\text{エ}) \end{aligned}$$

⇒ 負債比率 (P259) について、
有利子負債のみで考慮したもの。

3. 追加借入れの自己資本経常利益率の影響

追加の借入を行い、営業利益に変化がないとすれば、支払利息の増加によって経常利益は減少する。経常利益が減少すれば純資産も減少するが、自己資本経常利益率は(注)低くなる(オ)。

(注) 例えば、現状の自己資本経常利益率が10% (= 経常利益100 ÷ 自己資本1,000) であるとする。追加の借入によって支払利息が10増加すると、経常利益は90、自己資本は(法人税等を無視すると)990となるから、借入後の自己資本経常利益率は9% (= 90 ÷ 990) となり、借入前より低くなる。

落ち着いて考えてみてほしい。

問題13

正解

2

難易度

A

【出題内容】

計算 資金管理 (運転資金の管理)

【解説】

平易な問題であるため、確実に正答して欲しかった。

1. 仕入高の計算 (金額単位: 千円)

X1年度: 期首棚卸4,000 + 仕入高 x - 期末棚卸4,400 = 売上原価16,000 $\therefore x = 16,400$

X2年度: 期首棚卸4,400 + 仕入高 y - 期末棚卸2,800 = 売上原価18,800 $\therefore y = 17,200$

2. 回転期間の計算 (金額単位: 千円)

(1) 棚卸資産回転期間 $P255, 296$

X1年度: $\{(期首棚卸4,000 + 期末棚卸4,400) \div 2\} \div 売上原価16,000 \times 365日 \div 96日$

X2年度: $\{(期首棚卸4,400 + 期末棚卸2,800) \div 2\} \div 売上原価18,800 \times 365日 \div 70日$

(2) 買掛金回転期間 $P255, 296$

X1年度: $\{(期首買掛金2,000 + 期末買掛金3,300) \div 2\} \div 仕入高16,400 \times 365日 \div 59日$

X2年度: $\{(期首買掛金3,300 + 期末買掛金4,900) \div 2\} \div 仕入高17,200 \times 365日 \div 87日$

(3) 売掛金回転期間 $P258, 296$

X1年度: $\{(期首売掛金3,600 + 期末売掛金5,200) \div 2\} \div 売上高24,000 \times 365日 \div 67日$

X2年度: $\{(期首売掛金5,200 + 期末売掛金8,400) \div 2\} \div 売上高26,800 \times 365日 \div 93日$

3. 各指標の計算

(1) オペレーティング・サイクル $P296$

X1年度: 棚卸資産回転期間96日 + 売掛金回転期間67日 = 163日

X2年度: 棚卸資産回転期間70日 + 売掛金回転期間93日 = 163日

(2) キャッシュ・コンバージョン・サイクル $P296$

X1年度: オペレーティング・サイクル163日 - 買掛金回転期間59日 = 104日

X2年度: オペレーティング・サイクル163日 - 買掛金回転期間87日 = 76日

(3) 買掛金売掛金回転期間差 $P297$

X1年度: 買掛金回転期間59日 - 売掛金回転期間67日 = -8日

X2年度: 買掛金回転期間87日 - 売掛金回転期間93日 = -6日

4. 正誤判断

ア. 正しい。 買掛金回転期間の増加は28日 (59日 $\rightarrow$ 87日) ≤ 30 日である。

イ. 誤り。 オペレーティング・サイクルの減少は0日 (163日 $\rightarrow$ 163日) ≤ 3 日である。

ウ. 誤り。 キャッシュ・コンバージョン・サイクルの減少は28日 (104日 $\rightarrow$ 76日) ≤ 30 日である。

エ. 正しい。 買掛金売掛金回転期間差の増加は2日 (-8日 $\rightarrow$ -6日) ≤ 10 日である。

問題12

正解

2

難易度

C

【出題内容】

計算 資金管理

【解 説】

正答に至るまでに10分以上かかるであろう。
本番では着手しない方がよい問題であるが、
資金管理の全体像をつかむには適切な問題であるため。
何度か解き直してみたい。

1. 当期純利益の計算 (金額単位: 百万円)

損益計算書

売上高	120,000	
売上原価	*1) 88,800	*1) 差額
売上総利益	*2) 31,200	*2) 年間売上高120,000百万円×売上総利益率26%
減価償却費	*3) 50	*3) 投資額1,000百万円÷耐用年数20年
貸倒引当金繰入額	*4) 1,600	*4) 売上債権期末残高20,000百万円
その他販管費	24,000	(2. 運転資本の整理を参照)×引当率8%
営業利益	5,550	
支払利息	*5) 200	*5) [資料] 5. 年間支払利息
税引前利益	5,350	
法人税(40%)	2,140	
税引後利益	3,210	

2. 運転資本の整理 (金額単位: 百万円)

売上債権

期首	—	回収	∴ 100,000
掛売上	120,000		
		期末	*1) 20,000

商品

期首	—	販売	88,800
購入	90,000		
		期末	∴ 1,200

仕入債務

支払	∴ 82,500	期首	—
		掛仕入	90,000
期末	*2) 7,500		

*1) 年間売上高120,000百万円÷12ヶ月×2ヶ月(月末締め翌々月末現金回収)

*2) 年間仕入高90,000百万円÷12ヶ月×1ヶ月(月末締め翌月末現金支払)

3. 間接法によるキャッシュ・フロー計算書(金額単位:百万円)

営業活動によるキャッシュ・フロー			
税引前当期純利益	5,350		
減価償却費	50		
貸倒引当金の増加額	1,600		
支払利息	200		
売上債権の増加額	*1) ▲20,000	*1)	期首0百万円ー期末20,000百万円
棚卸資産の増加額	*2) ▲1,200	*2)	期首0百万円ー期末1,200百万円
仕入債務の増加額	*3) 7,500	*3)	期末7,500百万円ー期首0百万円
小計	▲6,500		
利息の支払額	▲200		
法人税等の支払額	▲2,140		
営業活動によるキャッシュ・フロー	▲8,840	(ア)	

4. キャッシュ・コンバージョン・サイクル p296

(1) 売上債権回転期間の計算

$$\frac{\text{期末残高20,000百万円}}{\text{売上高120,000百万円}} \times 365 \text{日} = 60.8 \cdots \text{日}$$

(2) 棚卸資産回転期間の計算

$$\frac{\text{期末残高1,200百万円}}{\text{売上原価88,800百万円}} \times 365 \text{日} = 4.9 \cdots \text{日}$$

(3) 仕入債務回転期間の計算

$$\frac{\text{期末残高7,500百万円}}{\text{売上原価88,800百万円}} \times 365 \text{日} = 30.8 \cdots \text{日}$$

(4) キャッシュ・コンバージョン・サイクルの計算

$$\text{売上債権回転期間} 60.8 \cdots \text{日} + \text{棚卸資産回転期間} 4.9 \cdots \text{日} - \text{仕入債務回転期間} 30.8 \cdots \text{日} \\ = 34.9 \cdots \rightarrow \mathbf{35 \text{日} (イ)}$$

「CCC」を算定するとなれば、
この379回転期間を算定する!

5. 〔説明〕の穴埋め

- 20X1年度キャッシュ・フロー計算書(間接法)の営業活動によるキャッシュ・フローの算定に当たっては、営業利益に対応するキャッシュ・フローである小計▲(*:6,500)百万円を算定した後、営業活動によるキャッシュ・フローとして、▲(ア:8,840)百万円を算定する。営業活動によるキャッシュ・フローに、(*:投資活動によるキャッシュ・フロー)および(*:財務活動によるキャッシュ・フロー)を加えて、現金および現金同等物の増減額を計算する。なお、▲は負の値を示している。
- 20X1年度の資金的安全性については、(*:売上債権対仕入債務比率)が1より大きいため短期的な資金ショートの可能性は少ないと思われる。キャッシュ・コンバージョン・サイクルは(イ:35)日である。

≡流動比率 p258

問題11

正解

4

難易度

B

【出題内容】

計算 資金管理 (キャッシュ・サイクル)

P296

【解説】

「CCC」を算定する。となれば、この3つの回転期間を算定する!

1. 売上債権回転期間 (金額単位: 百万円)

$$\frac{(\text{当期末}2,000 + \text{次期末}2,000) \div 2}{\text{次期売上高}20,000} \times 365 \text{日} = 36.5 \text{日}$$

2. 棚卸資産回転期間 (金額単位: 百万円)

$$\frac{(\text{当期末}2,000 + \text{次期末}_{*1})500 \div 2}{\text{次期売上原価}16,000} \times 365 \text{日} = 28.515625 \text{日}$$

*1) 単純平均棚卸資産 *2) $1,250 \times 2 - \text{当期末棚卸資産}2,000$

*2) $\text{次期売上原価}16,000 \div \text{次期棚卸資産回転率}_{*3})12.8 \text{回}$

*3) $\text{当期棚卸資産回転率}_{*4})10 \text{回} \times \text{次期目標設定}1.28$

$$\frac{\text{当期売上原価}16,000}{(\text{前期末}1,200 + \text{当期末}2,000) \div 2}$$

3. 仕入債務回転期間 (金額単位: 百万円)

$$\frac{(\text{当期末}_{*1})1,500 + \text{次期末}_{*2})1,200 \div 2}{\text{次期仕入高}_{*3})14,500} \times 365 \text{日} = 33.982 \cdots \text{日}$$

*1) $\text{当期末売上債権}2,000 + \text{当期末棚卸資産}2,000 - \text{当期末正味運転資本}2,500$

*2) $\text{次期末売上債権}2,000 + \text{次期末棚卸資産}500 - \text{次期末正味運転資本}1,300$

*3) $\text{次期売上原価}16,000 + \text{次期末棚卸資産}500 - \text{当期末棚卸資産}2,000$

P294

4. キャッシュ・コンバージョン・サイクルの計算

棚卸資産回転期間28.515625日 + 売上債権回転期間36.5日 - 仕入債務回転期間33.982...日

$$= 31.032 \cdots \rightarrow 31.03 \text{日}$$

✓ イメージしつづければ、(P254)の「回転期間は回転率の逆数」という関係から、

回転率が $\frac{128}{100}$ 倍 $\Rightarrow$ 回転期間は $\frac{100}{128}$ 倍

当期の回転期間は $\frac{1,600}{16,000}$ 年、つまり $\frac{1}{10}$ 年だから、

ここから $\frac{1}{10} \text{年} \times \frac{100}{128}$ 、つまり、 $\frac{10}{128}$ 年になる、と考えればよい。

次期末の棚卸資産残高を x とおくと

$$\frac{\frac{2,000 + x}{2}}{16,000} = \frac{10}{128}$$

$$\text{より、} 64 \times (2,000 + x) = 160,000 \\ x = 500$$